

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

群馬県

○学校名

桐生市立川内中学校

○学校のURL

<http://www10.ocn.ne.jp/~kawauchi/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年各3学級、【特別支援学級】1学級、【合計】10学級
(平成24年5月1日現在)

○児童生徒数

【児童数】276人(平成24年5月1日現在)
(内訳:1年生100人、2年生86人、3年生90人)

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】

「自学」・「自律」(自分で自分を育てよう)

- ・自ら学び、考える生徒
- ・思いやりがあり、協力する生徒
- ・心身を鍛え、行動する生徒

【人権教育目標】

人権尊重の精神に基づき、日常生活の中にある身近な差別や偏見をなくすとともに、人権問題について正しく認識し、あらゆる差別を許さない強い意志と実践力のある生徒を育成する。

【研究主題】

自他を認め合い、自ら進んで活動できる生徒の育成
～道徳、総合的な学習の時間、特別活動を中核とした指導を通して～

○人権教育にかかる取組の全体概要

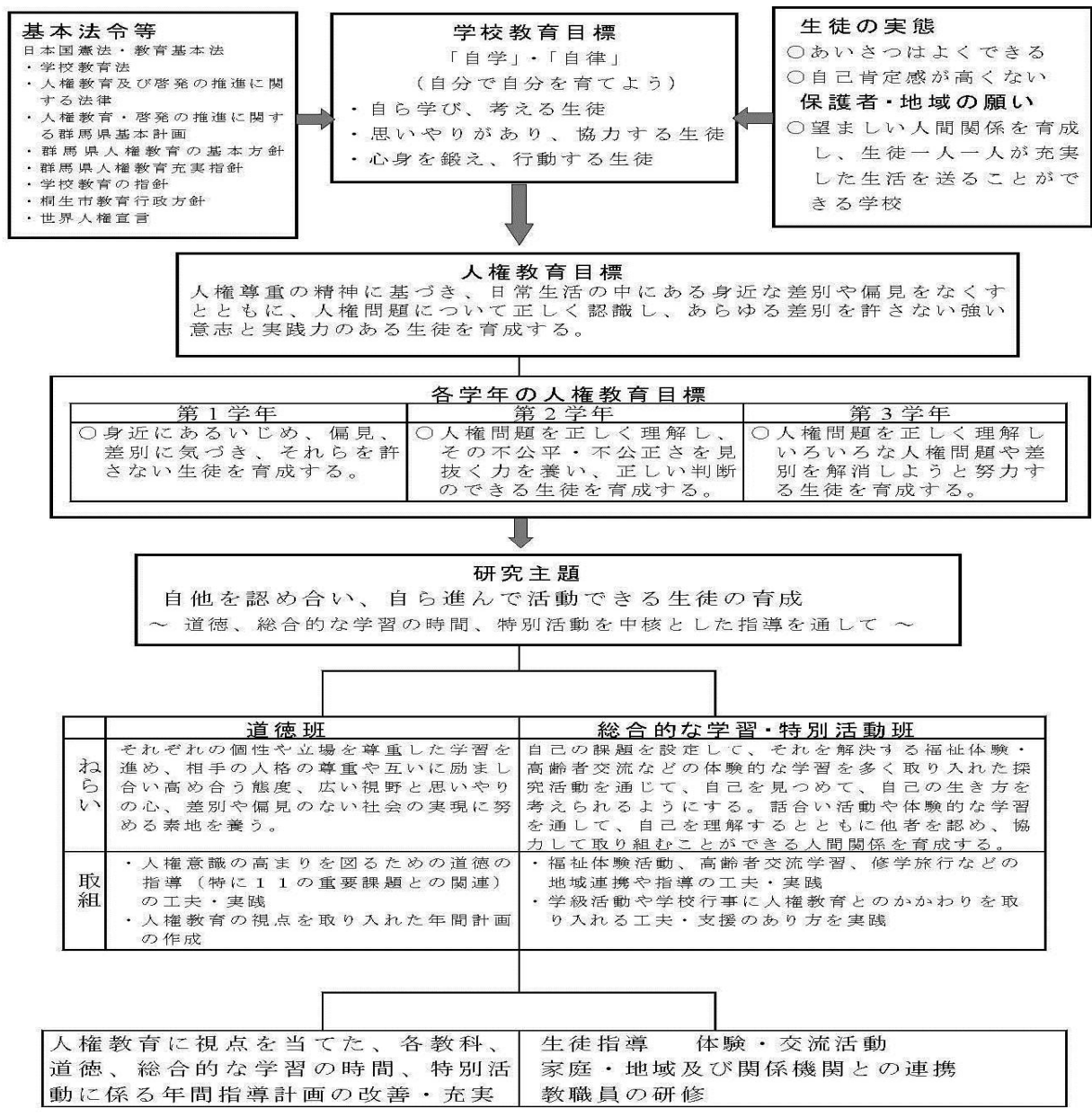
○ 研究内容の概要

①人権教育の視点に立って、**②**教育課程の質的な改善を行うことで、**③**「自他を認め合い、自ら進んで活動できる生徒」を育成する。

<具体的な取組>

- ①生徒、教員の人権教育に係る実態把握
(人権感覚に関するアンケート調査、C&S質問紙〔学級の雰囲気と自己肯定感を把握する質問紙〕調査等)
- ②人権教育に視点を当てた道徳を中心とした授業づくりの理解及び授業実践
(講師を招いての学習会、指導主事訪問での授業公開)
- ③総合的な学習の時間や特別活動における人権教育に関連がある教育活動の工夫
- ④人権教育で育てたい能力・態度を明確にした人権教育年間指導計画等の作成

○ 研究の全体構想図



3. 特色ある実践事例の内容

(1) 生徒、教員の人権教育に係る実態把握

本校で作成した「人権感覚に関するアンケート調査」や群馬県総合教育センターの「C&S質問紙〔学級の雰囲気と自己肯定感を把握する質問紙〕」調査を実施し、生徒及び教員の人権教育に関する実態調査を実施した。

C&S質問紙調査の実施に当たっては、総合教育センターから講師を招き、活用に関する研修を実施した。各学級で実施した質問紙を持ち寄り、それを基に講師の方から見方や分析の仕方を説明していただいた。C&S質問紙調査では、自己肯定感や学級の満足度などを視覚的に分かりやすく分析できるため、学級経営を行う上で、参考になる資料を得ることができた。（「C&S質問紙調査」については、下記の群馬県総合教育センターWeb ページを参照

http://www.center.gsn.ed.jp/soudan/soudan_csq.html

平成24年度 人権感覚に関するアンケート (第1回・生徒用)

年 組 番 氏名

回答は、該当箇所のマークを、黒の鉛筆で はっきりと 塗りつぶして回答してください。
空白マークの例 正しい塗り潰しの例 不完全な塗り潰しの例

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

1 授業前・朝の会

(1)遅刻したり欠席したりしている仲間のことを気に掛け、声をかけている。
 1:とてもあてはまる 2:少しあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:あてはまらない

(2)先生や友達に気持ちよくあいさつができる。
 1:とてもあてはまる 2:少しあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:あてはまらない

2 授業中

(3)問題を気にせずに、自分の考え(答え)を発表できる。
 1:とてもあてはまる 2:少しあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:あてはまらない

(4)授業中わからないところを教えあおうとしている。
 1:とてもあてはまる 2:少しあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:あてはまらない

(5)授業中にグループで行う実験や作業に入りこもうとしている子がいたら声をかけることができる。
 1:とてもあてはまる 2:少しあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:あてはまらない

(6)質問に答えられない子や、間違えて答えた子を受けつめりからかたりしないようにしている。
 1:とてもあてはまる 2:少しあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:あてはまらない

(7)教科書やノート、学校の机などを丁寧に扱っている。
 1:とてもあてはまる 2:少しあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:あてはまらない

(8)どの教科の授業でも規律を守り、仲間と協力して参加することができる。
 1:とてもあてはまる 2:少しあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:あてはまらない

3 休み時間

(9)一人で行っている子のことを気にかけて、声をかけている。
 1:とてもあてはまる 2:少しあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:あてはまらない

(10)人の失敗を笑ったり、冷やかしたりしないようにしている。
 1:とてもあてはまる 2:少しあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:あてはまらない

(11)人を傷つける言葉を使わないで喋っている。
 1:とてもあてはまる 2:少しあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:あてはまらない

1/2
面接指導
 担当者
 氏名

＜人権感覚に関するアンケート：生徒用＞

(2) 人権教育に視点を当てた道徳を中心とした授業づくりの理解及び授業実践

①人権教育に視点を当てた授業づくりの理解に向けて、群馬県教育委員会から講師を招き、県の人権教育の方針や重点課題について研修する機会を設けた。特に、「教科等の指導と人権教育との関わり」「授業における人権教育の視点」「人権教育で育てたい五つの能力・態度（感性・知性・技能・判断力・実践力）」等についての説明は、授業実践や年間指導計画等を作成する上で参考になった。



②人権教育に視点を当てた道徳の授業づくりの理解に向けて、群馬県教育委員会から講師を招き、県の人権教育の方針を踏まえて、道徳の時間における直接的指導（個別的な人権課題に関する指導）の在り方について研修する機会を設けた。特に、「道徳の時間のねらいを達成することが第一であり、その中で人権教育の視点を押さえることが大切」との指摘を受け、授業実践や年間指導計画等を作成する上で参考になった。

③上記研修会を踏まえ、指導主事訪問において全教員が道徳を始め、各教科等において、人権教育に視点を当てた授業を実践した。次ページは、実践の一覧である。

授業実践の取組について

- ※①～③については、実施したものに○印を記入
 ①…「人権教育とのかかわり」「人権教育の視点」を記述した指導案等の作成
 ②…研究授業等の実施
 ③…授業研究会の実施

1 学習内容に人権教育に関する内容を含む教科等

(1) 普遍的な（人権一般と関連のある）内容を含んでいる教科等

No.	教科等	実施学年	単元・題材・主題名、保育内容	①	②	③
1	道徳	2年	『一番乗り』たけいち（謙虚な心）	○		
2	道徳	2年	「軽いやさしさ」（思いやり）	○		
3	道徳	1年	クラスメート（異性理解）	○		
4	学級活動	1年	お互いに認め合おう	○		
5	道徳	1年	ある日のバターボックス（公正・公平）	○	○	○
6	道徳	2年	ひとりぼっち（公正・公平）	○		
7	道徳	1年	バスと赤ちゃん（思いやり）	○		
8	道徳	3年	1リットルの涙（生命の尊重）	○		
9	道徳	3年	ドナーカード（生命の尊重・家族愛）	○		
10	道徳	2年	「わたしの国 ぼくの国」（国際理解）	○		

(2) 重要課題（11課題）との関連のある内容を含んでいる教科等

No.	課題	教科等	実施学年	単元・題材・主題名、	①	②	③
1	その他の人権	社会	3年	人権と日本国憲法	○		
2	女性	道徳	3年	「人生、一度だけだから」	○	○	○
3	高齢者	道徳	2年	「一冊のノート」	○		
4	障害者	道徳	3年	「ひまわり」	○		
5	犯罪被害者	道徳	2年	「路上に散った正義感」	○		

2 常時指導に視点を充てた指導（上記1(1)(2)以外の全ての教科等の指導）

No.	教科等	実施学年	単元・題材・主題名、	①	②	③
1	美術	2年	ポスターの制作	○		
2	数学	3年	多項式	○		
3	理科	3年	生物の細胞のふえ方	○		
4	保健体育	1年	長距離走	○		
5	英語	2年	A Park or a Parking Area ?	○		
6	音楽	2年	合唱の喜び	○		
7	数学	2年	1次関数	○		
8	理科	2年	動物の世界	○		
9	社会	1年	海に開かれた時代	○		
10	理科	1年	身のまわりの物質	○		
11	保健体育	1年	ダンス	○		
12	理科	2年	化学変化と原子・分子	○		
13	音楽	2年	花の季節	○		
14	理科	3年	酸とアルカリ	○		

(3) 総合的な学習の時間や特別活動における人権教育に関連がある教育活動の工夫

学級を基盤として、各学年・学校全体で達成感や安心感をもち、自他を認め合い、自ら進んで活動できる生徒の育成を目指し、以下のように総合的な学習の時間や特別活動における教育活動の工夫を行った。

<総合的な学習の時間での取組>

① 福祉体験学習（第1・2学年）

毎年行っている福祉体験学習において、事前・事後の指導や学級活動、道徳と有機的に関連させた指導の工夫を行った。市内の各ボランティア団体との連携を図り、第1学年では、ボランティアについての講話（市社会福祉協議会）、車いすの介助体験、ブラインドウォーク体験（かるがもの会）を、第2学年では、点字体験（桐生点訳文化会）、要約筆



ブラインドウォーク（第1学年）

記体験（桐生要約筆記会）、手話体験（桐生市手話サークル桐の葉会）の中から二つを選択し、体験的な学習を行った。

第1学年では、事前学習として、学級活動で高原学校を振り返り、集団生活の観点から「障害者とのかかわり」について、これからどんなことができるか考えさせた。そして、事後活動として、実際に体験したことを基に「おばあちゃんの指定席」を資料とした道徳の授業を行い、思いやりの心をもって人と接しようとする心情を育てた。第2学年では、NHKのビデオ教材を活用して、差別や偏見をもたずに人と接していこうとする心情を育てた。



要約筆記体験（第2学年）

②認知症サポーター養成講座（第1学年）

桐生市長寿支援課との連携を図り、第1学年で認知症サポーター養成講座を実施した。毎年第1学年では、高齢者交流学習を行ってきたが、その事前学習として認知症の理解を深め、接し方を学んだ上で実際の体験に取り組みせたいと考えた。当日は、桐生市西地域包括支援センターの介護支援専門員の方から認知症の詳しい説明を聞き、お年寄りの方には優しさや思いやりの心で接することが大切であることに改めて気付くことができた。



認知症サポーター養成講座

③高齢者交流学習（第1学年）

本校では、毎年第1学年の総合的な学習の一環として、地域の福祉施設との連携を図った高齢者交流学習を行っている。この活動では、地域の高齢者福祉施設等におけるお年寄りとの交流を通し、生徒の生活体験を充実させるとともに奉仕の精神や他への気遣いの気持ちを育むことをねらいとしている。24年度は六つの施設を訪問した。生徒は班ごとに訪問する施設を分担して、どのような交流をするかなど内容を検討しながら、当日必要な道具の準備や練習など、事前の準備に一生懸命に取り組んだ。当日は、歌・手品・風船バレー・カードゲームなどの活動を通して交流した。また、「認知症サポーター養成講座」での学習を生かし、お年寄りの思いを理解し、優しさと思いやりをもって接しようとする姿も見られた。事後の振り返りの感想からは、「学校でも言葉遣いなどに気を付けるようにしたい。」「お年寄りだけでなく、周りの人や友達に対しても笑顔で接したい。」など、様々な場面で本学習を生かしていこうとする様子が伺えた。



高齢者交流学習

④保育実習（第3学年）

家庭科の「幼い頃をふり返ろう」「幼児の心身の発達」「幼児との触れあい」等の学習と関連させ、総合的な学習で保育実習を実施した。幼い子供たちと実際に触れ合うことを通して、自分自身の幼少の頃を振り返り、自分の成長に多くの人々の支援があったことに気付いたり、自己肯定感を高めたりすることができた。



子供たちと遊ぶ活動

<特別活動での取組>

①KJ法や「がんばりカード」を活用した自己の存在感を高めるための授業実践（学級活動・第2学年）

「集団生活を向上させよう」（学習指導要領（1）ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決）を題材として取り上げ、次のような授業を実践した。

- ・アンケート結果から、清掃活動と係活動の取組の向上が学級の課題であることをつかむ。
- ・課題解決のために、「自己の役割」「協力」の視点で、KJ法を活用して意見を出し合い、グループで討議する。
- ・自己決定を行った上で、それに基づいて約1か月間清掃活動や係活動に取り組む。
- ・「がんばりカード」で取組の相互評価を行う。



KJ法での話し合い活動

活動の振り返りでは、清掃活動については、「雑巾で当たり前のようにやっていたことがよかったところとしてあがったのはうれしかった。頑張ればこうやっていいことが待っているのかなと思った。」係活動については、「自分では声が小さいと思っていたけど大きい声が出ていると言ってくれていたの、声が出ているのかなあと感じた。次からも頑張りたいです。」などと感想を述べていた。「がんばりカード」を通じて、頑張ってきたことを相手に気付いてもらい、伝えてもらったことで、地道な活動でも自己の役割や責任を遂行することが大切であることに気付くことができた。

②学級目標や個人目標に「思いやり」の視点を取り入れる活動

学級活動において、学級目標や個人目標を立てる際に、生徒に「思いやり」の視点を踏まえて考えさせた。

この目標を5月の生徒総会の「川内中学校を思いやりあふれる学校にするための提案」で、学級委員会が発表した。各学級でポスターを作成して、それをプレゼンテーションソフトで提示しながら、全校生徒の前で紹介した。目指すクラスを発表したことで、思いやりを大切にしていこうとする学校風土の素地ができた。



「思いやり」の視点を取り入れたポスター

表 1 学級目標 <思いやりの目標>

学級	思いやりの目標
1 A	友達との思いやりを深め、色々なことを知り、分かち合い助け合えるクラス
1 B	人の立場になって、協力し合えるクラス
1 C	全員が笑顔で過ごせるように、仲間のことを思い、気を配れるクラス
2 A	相手の気持ちを考えられて、勝負強いクラス
2 B	誰にでも優しく、親切で助け合えるクラス
2 C	クラスのチームプレーを発揮し、困っている人を助けるのが当たり前になるクラス
3 A	なぐさめよう 失敗の1つや2つどうにかなるさ
3 B	失敗を笑わないで、誰にでも公平に接するクラス
3 C	困難協合なクラス

また、「思いやり」の項を設けた共通のシートに、学期ごとの個人目標を立てさせ、教室に掲示した。

記述から、自分にできることを具体的に考えようとしている姿が見られた。そして教員の適切な支援のもと、生徒の実践意欲を高め、主体的な行動に結び付けられるようにした。

表 2 「思いやり」の視点を取り入れた個人目標（例）

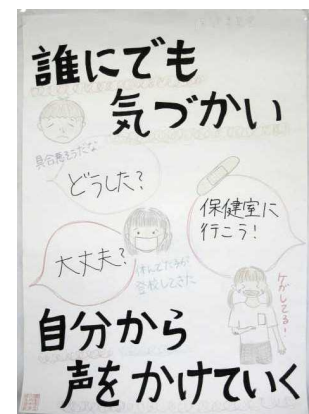
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも笑顔で、何か渡されたりもらったりしたら「ありがとう」と言う。 ・自分より相手のことに気遣って、ある時は優先してあげる。 ・同じ人だけと遊ぶのではなく、人の好き嫌いをしないようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗したら励まし合う。頑張っている人に声をかける。 ・よく周りをみて大変そうな人がいたら、助けます。 ・後輩に優しく接していきたいです。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても気軽に接する。一人でいる子に声をかける。 ・地味なことでも率先してやる。他人のことを考え、意見を尊重していい関係が築けるようにする。 ・重いものをもっていたら声をかけて手伝う。

③委員会の活動目標に「思いやり」の視点を取り入れる活動

川内中を思いやりのあふれる学校にするために、各委員会活動の目標の中に「思いやり」の視点を取り入れる活動を行った。委員会の活動目標としてポスターを作成し、生徒総会の際に発表した。

表 3 委員会活動目標 <思いやりの目標>

委員会名	思いやりの視点をもつ活動
学級	一人一人の意見を大切にして、各行事を中心となり、思い出に残るクラスをつくる。
安全・環境	みんなが安全な学校生活を送るために自転車点検を行う。みんながきれいで快適に過ごせるように積極的に掃除を行う。
給食・放送	みんなが気持ちよく給食を食べられるように放送する。
リサイクル	より多くの人を救い、笑顔を生むためにたくさん集める。
図書	だれでも気軽に利用でき、過ごしやすい図書室にする。
保健	誰にでも気づかい、自分から声をかけていく。
体育	体育行事での安全面を考えて、校庭の石拾いやプールのゴミ拾いをきちんとする。
新聞	思いやりのコーナーを新聞の記事に入れる。
本部	一つ一つの行動に思いやりの心を持ち、たがいに協力しあう学校を作る。



保健委員会のポスター

④「5大ほかほか言葉」の制定

「人権感覚に関するアンケート調査」の結果から、自信をもって仲間に積極的に声をかけられる生徒の育成が課題として明らかになった。そこで、生徒会本部と学級委員会に対して、仲間に積極的に声を掛けていこうとする学校風土づくりのための取組を促した。生徒会本部と学級委員会は、生徒総会で、本校を思いやりのあふれる学校にするための「5大ほかほか言葉」づくりを提案した。この「5大ほかほか言葉」は、心が温かくなるような言葉を積極的に使って、思いやりの心を育てていこうとするものである。学級委員会が中心となり、各学級で「言葉」について話し合い、それを基に生徒会本部と協議して「5大ほかほか言葉」を決定した。

川内中学校
「5大ほかほか言葉」決定
ありがとう
ドンマイ
大丈夫
またね
ごめんね

は、生徒総会で、本校を思いやりのあふれる学校にするための「5大ほかほか言葉」づくりを提案した。この「5大ほかほか言葉」は、心が温かくなるような言葉を積極的に使って、思いやりの心を育てていこうとするものである。学級委員会が中心となり、各学級で「言葉」について話し合い、それを基に生徒会本部と協議して「5大ほかほか言葉」を決定した。

⑤「5大ほかほか言葉」の振り返りの活動（学級活動）

特別活動班の提案により、全学年で「5大ほかほか言葉」の取組の振り返り活動を行った。

以下は、ワークシートからの抜粋である。

1 クラスの結果（ほかほか言葉を使っているか）についてどう思いますか。

- ・「ドンマイ」や「またね」など、人を励ます言葉の人数が少ない。
- ・「大丈夫？」は使ってそうで使っていないことに驚いた。
- ・「ありがとう」はよく使っていて良いと思う。他の言葉はもっと使っていきたい。

2 友達から言われて嬉しかったほかほか言葉を具体的にたくさん書こう。

- ・給食の用意を手伝った時、「ありがとう」って言ってくれたこと。
- ・テニスのサーブが入らなかった時に、「ドンマイ、次は入るよ」と言ってくれた。
- ・部活動中、足が痛かったり、腹が痛かったりすると、みんなが「大丈夫？」と心配してくれた。

3 友達の発表を聞いて気付いた、友達のよさを書こう。

- ・班のメンバーの先輩は、ほかほか言葉をよく使っていてすごいと思った。
- ・〇〇君は、友達の良いところをいろいろとすぐに気付いてくれることを知った。
- ・皆は、ほかほか言葉を言われると、嬉しくなることが分かった。

4 今回の授業で考えたこと、気付いたこと、授業を振り返っての感想

- ・私はあまりほかほか言葉を使っていないことが分かったので、こまめに気にしていながら、使えるといいなと思った。
- ・誰かが困っていたり、悩んでいたりしたら、「大丈夫？」と言っていきたい。
- ・友達などによくほかほか言葉を言われていることに気付いた。これから、私もたくさんほかほか言葉を言えるようにしたい。

(4) 人権教育で育てたい能力・態度を明確にした人権教育年間指導計画等の作成

①人権教育年間指導計画の作成

平成24年度からの中学校学習指導要領の完全実施に伴う各教科等の年間指導計画の作成と併行して、各学年の各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動との関連を明確にした各学年の人権教育年間指導計画を作成した。

年間指導計画の各活動には、群馬県教育委員会で定めている「人権教育で育てたい五つの能力・態度（感性・知性・技能・判断力・実践力）」を盛り込み、人権教育との関わりを明示した。

人権教育年間指導計画(第1学年)

学年目標	一人一人の個性に気づき、互いに尊重しあえる生徒を育成する。 身近にあるいじめ、偏見、差別に気づきそれらを許さない生徒を育成する。												
重要課題	①女性 ②子どもたち ③高齢者 ④障がいのある人たち ⑤同和問題 ⑥外国籍の人たち ⑦HIV感染者等 ⑧ハンセン病元患者 ⑨犯罪被害者等 ⑩インターネット等 ⑪その他												
育てたい能力・態度	感性(感) 知性(知) 技能(技) 判断力(判) 実践力(実)												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
各教科	【社地】○世界各地の人々の生活と環境⑥(知) 【技術】○ヘアケアフリーザーサインとユニバーサルデザイン④(知) 【理科】○植物の世界(判) 【国語】○野原はうたう(感) 【音楽】○心を伝え合う歌い方を求めて②(感) 【家庭】○食事の役割(知) 【英語】○Unit1 ようこそ、日本の学校へ⑥(実)	【美術】○その人らしさを伝える(技) 【国語】○友達をみんなに紹介しよう(感・実)	【技術】○ネットワークと情報の取扱い⑩(知) 【数学】○文字と式(判) 【英語】○Unit4 楽しい息休み⑥(感・実) 【保健】○性機能の成熟①(知) ○性はどう向き合おうか①(知) 【国語】○わかりやすく説明しよう(技)	【理科】○身のまわりの物質(判) 【数学】○大人数になれなかった素たりに……(感)	【社会】○権力をにぎった貴族たち①(知) 【国語】○大人になれなかった素たりに……(感)	【社会】○私をもいじめた人なのにな……②(感・判・実)	【社会】○殿さまのちやん②(感・判) 【音楽】○夜のかぐやめ②(感・実)	【社会】○夜のくぐも屋②(感・実)	○パスと赤ちゃん①(感・実)	○ある日のバターボックス④(感・判)	○あなたはずいぶん力でもまれてきた①②(感)	○旗②(感・実)	【数学】○資料の散らばりと代表値(判) 【美術】○アジアをつなぐ仮面の舞⑥(感)
道徳	○自分の番のいのちのバトン②(感・判)	○ほくの性格をつけた友人②(感・判)	○おばあちゃんの指定席③(感・実)	○アイツ①(感・判)		○私をもいじめた人なのにな……②(感・判・実)	○殿さまのちやん②(感・判)	○夜のくぐも屋②(感・実)	○パスと赤ちゃん①(感・実)	○ある日のバターボックス④(感・判)	○あなたはずいぶん力でもまれてきた①②(感)	○旗②(感・実)	
学級活動	私たちの学級と組織作り⑩(実)	高円学校に向けて⑩(判) 福祉体験学習④(知・判)	エイズについて考えるよう⑦(知)	親の生き方を考える⑩(判)		体育会に向けて⑩(技) 居春部的心をたたく⑩(感・知)	合唱コンクールに向けて⑩(技)	自分を知る⑩(知・判)	悩みと相談②(感)	自分の特徴⑩(知・判)	英文文庫について⑩⑪(知・実) 福の心から⑩⑫(感)		
特別活動	○各委員会活動(実)～心の友運動②④、赤い羽根共同募金②③④⑩、友情の絵はがき②④、バドミントンキャップ回収②⑥ ○社会福祉法人 相生社会福祉協議会 相生みやま園 ボランティア※絆深祭、運動会、文化会等(実)④												
学校行事	○入学式(感・判・実)	○交通安全教室(知・判・実)	○球技大会(技・判・実)			○体育祭(技・判・実)		○合唱コンクール(感・判・実)	○マラソン大会(技・実)		○3年生を送る会(技・実)	○卒業式(実)	
総合的な学習の時間	高円学校①②(感・技・判・実) 福祉体験学習④(知・技)				○高齢者交流学習③④(感・技・判・実)				身近な職業への意義②⑩(知・判)				
生徒指導	○あいさつの励行(感・知・実) ○登校指導・頭髪検査・生活評価表	○あいさつの励行(感・知・実) ○登校指導・心の安全点検	○チャーム差障の励行(判・実) ○登校指導・頭髪検査・心の安全点検	○非行防止(春休みに向けて)(知・判) ○登校指導・頭髪検査・心の安全点検	○身だしなみを正す(判・実) ○登校指導・頭髪検査・心の安全点検	○協力すること大切(知・実) ○登校指導・生活評価表	○協力すること大切(知・実) ○登校指導・頭髪検査・心の安全点検	○励まし合うこと大切(知・実) ○登校指導・心の安全点検	○非行防止(冬休みに向けて)(知・判) ○登校指導・頭髪検査・生活評価表	○目標を持つ(感・知) ○登校指導・頭髪検査・生活評価表	○友達の大切さ(感・実) ○登校指導・心の安全点検	○非行防止(春休みに向けて)(知・判) ○登校指導・心の安全点検	
家庭・地域との連携	○授業参観 ○学年保護者会	○登校指導 ○家庭訪問 ○PTA年度総会	○登校指導 ○防犯パトロール	○登校指導 ○防犯パトロール ○学校公開 ○学年保護者会	○登校指導 ○防犯パトロール ○みやま園フレイブ	○登校指導 ○防犯パトロール ○体育祭における高齢者・幼稚園の招待	○登校指導 ○防犯パトロール ○みやま園フレイブ	○登校指導 ○防犯パトロール ○三者面談	○登校指導 ○防犯パトロール ○学校公開 ○保護者会講演会	○登校指導 ○防犯パトロール	○登校指導 ○防犯パトロール ○PTA年度総会	○登校指導 ○防犯パトロール	
学年行事その他		○高円学校①②(感・技・判・実)	○福祉体験③④(感・技・判・実)			○高齢者交流学習③④(感・技・判・実)					○百人一首大会⑩(技・実)		

<参考：人権教育で育てたい五つの能力・態度（中学校）>

【感性】	自己を理解し、自尊感情を高め、身近な人権問題に気づき、共感する。
【知性】 (知的理解)	人権に関する基礎的内容（人権の意義、権利や義務、主な人権課題等）を理解する。
【技能】	権利を行使するにあたって、人間関係能力に関わるスキルを身に付ける。
【判断力】	権利と義務の関係を正しくとらえ、物事を公正・公平に判断する。
【実践力】	人権尊重の意識をもち、身近な人権問題を解決しようとする。

②人権教育で育てたい能力・態度の具体化

総合的な学習の時間や特別活動を中心に、各学習内容における「人権教育で育てたい五つの能力・態度」を文章化し、具体的に示した。

<総合的な学習の時間> (抜粋)

学習内容	人権教育で育てたい能力
福祉体験学習 1・2年：6月 (体験的な学習)	【感性】模擬体験を通して、高齢者や障害者の立場になって考えることができる。 【知性】模擬体験を通して、高齢社会やノーマライゼーションに関する基礎的な理解をする。 【技能】模擬体験を通して、介護や福祉の技能を習得する。 【実践力】模擬体験を通して、それぞれの立場になって、自分ができることは何かを考えることができる。
職場体験学習 2年：9月 (体験的な学習)	【感性】職業体験を通して、共に生きる心や感謝の心、豊かな感性や創造性を高める。 【技能】職業体験を通して、様々な立場になって考え、人に接する技能を習得する。

<特別活動(学校行事)> (抜粋)

学習内容	人権教育で育てたい能力
入学式 全学年：4月 (参加的な学習)	【感性】新入生は中学校での新たなスタートに際し、気持ちを新たに自己の高まりを実感する。在校生は、新入生を迎え、温かく接していこうとする気持ちを育てる。
体育祭 全学年：9月 (協力的な学習)	【感性】体育祭を通して、公正・協力・責任などに対する意識を高める。 【実践力】学級で協力して、望ましい集団や人間関係を築く。
合唱コンクール 全学年：11月 (協力的な学習)	【感性】合唱活動を通して、豊かな心情を育む。 【判断力】生徒の自主性、責任感を育て、集団行動の規律ある態度の育成を図る。 【実践力】主体的なパート別練習や聴き合う活動の中で、お互いの歌声を認め合い、心を合わせて合唱に取り組む。

4. 実践事例の実績、実施による効果

(1) 実態調査から見た生徒の変容

学期に1回、全校生徒を対象に「人権感覚に関するアンケート調査」と「C&S質問紙調査」を実施した。「人権感覚に関するアンケート調査」では、21の項目で、4段階(A:とてもあてはまる B:少しあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない)の回答で、AとBを合わせた回答の割合で分析した。

<人権感覚に関するアンケート調査の結果>

表4 全校生徒を対象にして90%を超えた項目

項目	23年 5月	24年 9月	増減
友達を無理に遊びにさそわない	90%	96%	+ 6
友達が気にしていることや、秘密にしていることは言わない	95%	95%	0
特定の子にいろいろな仕事を押しつけない	89%	94%	+ 5
どの教科の授業でも規律をまもり、仲間と協力して参加することができる	91%	93%	+ 2
教室を移動する時など、他の子に荷物を持たせるようなことはしない	88%	93%	+ 5

表5 全校生徒を対象にして顕著な向上が見られた項目

(23年5月と24年9月との比較)

項目	23年 5月	24年 9月	増減
一人でいる子のことを気にかけて、声かけをしている	35%	50%	+ 15
遅刻したり欠席したりしている仲間のことを気にかけて、声かけをしている	50%	62%	+ 12
授業中にグループで行う実験や作業に入りにくそうにしている子がいたら声をかけることができる	53%	61%	+ 8

表6 現3年生を対象にして顕著な向上が見られた項目

(23年5月と24年9月との比較)

項目	23年 5月	24年 9月	増減
授業中にグループで行う実験や作業に入りにくそうにしている子がいたら声をかけることができる	44%	60%	+ 16
一人でいる子のことを気にかけて、声かけをしている	33%	48%	+ 15
授業中わからないところを教え合おうとしている	75%	83%	+ 8
質問に答えられない子や間違えて答えた子を笑ったりからかったりしないようにしている	83%	90%	+ 7
友達を無理に遊びにさそわない	92%	97%	+ 5
特定の子にいろいろな仕事を押しつけない	89%	94%	+ 5

表4から、本校の生徒は昨年度から規範意識が高い傾向であったが、更に向上したことが伺える。また、表5、6から、昨年度の課題となっていた「友達に対して進んで声をかける行動」については、「一人でいる子に対する声かけ」や「遅刻者や欠席した仲間への気遣い」などの意識の向上が見られるようになっている。

<C&S質問紙調査の結果>

「C&S質問紙調査」の結果分析から、ある学級では「学級の雰囲気」50以上

の生徒が9人から19人へと増加し、プロットが右側に移動したことがわかった。担任は、2学期は学校行事が多くあり、校内研修で作成した「人権教育で育てたい能力」の一覧表を踏まえて取り組んだ結果、協力し合う場面が増え、一体感を味わえたことが学級の雰囲気の高まりにつながったのではないかと分析している。また、「自己肯定感」については、あまり伸びていない傾向が伺える。成長に伴い、自分に対する厳しさが増すためであると考えます。

(2) 実態調査から見た教員の変容

学期に1回、教員を対象に「人権感覚に関するアンケート調査」を実施した。16の項目で、4段階（A：とてもあてはまる B：少しあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない）の回答で、Aの回答の割合で分析した。

<人権感覚に関するアンケート調査の結果>

表7 Aが90%を超えた項目

項目	23年 5月	24年 9月	増減
名簿、連絡網、写真の掲載、成績、個人情報の取り扱いには十分注意している	80%	100%	+20
職員室で、生徒のがんばっている姿や課題について話題にしている	47%	95%	+48
一人一人の生徒の様子を気にかけている	61%	94%	+33

表7から、気になる生徒に対する声かけを意識するようになったり、日頃から頑張っている生徒を職員室で話題にして、生徒のよさを認めていこうとしたりする教員の意識の向上が見られた。また、9月の学校評価アンケートの「校内研修が教員の資質向上と授業改善に結び付いていますか」の項目では、「はい」の回答が9割以上であった。様々な職員研修が有効に機能して、人権教育の理解が進み、人権感覚が向上し実践に結び付いてきたと考える。

5. 実践事例についての評価

(1) 研究の成果

- 講師を招いての研修（人権教育全般及びC&S質問紙調査の分析と活用）や出張報告会を行うことにより、研修の方向性が明らかになるとともに、人権教育に対する教職員の共通理解が深まった。
- 道徳班の話合いや道徳教育の全体研修会での学習を通して、人権教育と道徳との関連を意識した道徳の全体計画や年間指導計画の整備が進み、授業実践に生かすことができた。また、相手の人格を尊重する態度や思いやりの心が育まれ、生徒の人権感覚の向上につながった。
- 総合的な学習・特別活動班で、学校・学年の行事を人権教育の視点で見直したことにより、全体計画や年間指導計画の整備が進み、生徒一人一人を大切にされた実践につながった。
- 「人権感覚に関するアンケート調査」において、「仲間のことを気にかけて、声かけをしている」と答えた生徒が昨年度より増加した。「5大ほかほか言葉」や

「個人目標」などに思いやりの視点を取り入れたことにより、他者とのかかわりを意識した人間関係づくりができるようになり、生徒の人権感覚の向上や良好な人間関係の構築につながった。

- 校内研修の全体会において、「C & S 質問紙調査」や道徳の学習会の実施や人権尊重を基盤とする教育活動を実践しようとして研修を重ねたことにより、教職員の人権感覚を問い直したり、高めたりするよい機会となった。そして、改めて学級経営の大切さ、生徒一人一人を大切にすることの意義を実感できるようになり、教員の人権感覚や授業実践力の向上につながった。

(2) 今後の課題

- 「自他を認め合い、自ら進んで活動できる生徒の育成」を目指して、今後も本校が実践してきた諸活動を人権教育とのかかわりで更に見直し、意図的計画的に道徳、総合的な学習の時間、特別活動に取り組んでいく必要がある。
- 人権重要課題に対する取組が充実するよう、更に研究を深めながら各教科等における関連を明確にして実践していく必要がある。
- 「人権感覚に関するアンケート調査」や「C & S 質問紙調査」の分析方法を教職員が理解できたので、今後も継続的に生徒の変容を細かく分析し、手立ての有効性を検証し、学級経営や生徒理解に役立てていきたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

桐生市立川内中学校

学校が全教育活動を通じて行う人権教育を組織的・効果的に進めていくためには、人権教育の全体計画及び年間指導計画の作成が欠かせない。

本実践事例では、「人権教育で育てたい五つの能力・態度」を明らかにし、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動との関連を明確にした年間指導計画を作成している。総合的な学習の時間や特別活動の実践事例が具体的に示されており、それぞれの学校が人権教育を推進する際の参考となる。特に、「人権感覚に関するアンケート」から明らかになった課題を解決するための取組「5大ほかほか言葉」取組は、中学校の発達段階を踏まえ、学級活動や生徒会活動における生徒の主体性を引き出す実践として位置付けることができる。